

社会技術研究開発事業 研究開発プログラム「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」
平成21年度採択プロジェクト企画調査 事後評価結果報告書

1. 研究代表者：山田 章博（有限会社 市民空間きょうと 取締役／代表）
2. プロジェクト企画調査の題名：「自転車都市・京都」実現へのプロセスイメージの具体化
3. プロジェクト企画調査期間：平成21年10月～平成22年3月

4. プロジェクト企画調査の概要：

本企画調査では、地域に根ざした脱温暖化の実現を目標として、京都において、自転車を最大限に活用する都市の姿（＝自転車都市・京都）の実現を目指す研究開発プロジェクトを提案するために、市民、地域、事業者、NGO、行政などの協働的実践に向けた、①対話空間の設計・試行・検証、②対話支援のための情報資料の作成、③対話を支援する web 空間の構築と運用、を行ったものである。

5. 事後評価結果

5-1. プロジェクト企画調査の目標の達成状況

対話空間の設計・試行・検証については、上記①～③で連動して、相当程度の実証が行われ、この試行から、対話空間的手法の有効性の確認、問題点と課題の確認、実空間での対話と web 空間の関係性、ネット環境の改良への研究の必要性、対話過程への研究者・専門家の直接参加、情報提供における対話者と研究者等の役割について、全体的な考察が行われている。ただし、個々のグループである、コミュニケーション設計グループ、交通システムグループ、都市デザイングループによる実施内容・成果から全体への考察、今後の展望への取りまとめが不十分のように思われる。

5-2. 研究開発プロジェクトの提案にむけた準備状況

研究開発プロジェクト提案のためには、なお以下のような課題が残されていると考えられる。

- ・対話空間のプロセスイメージづくりの準備はできているが、今回の企画調査では、自転車都市づくりのための協働の仕組みについての提案はなされていない。また、「対話空間手法」は、市民の対話や合意形成のための一つのツールであるため、この手法の開発自体を当領域の研究開発のメインテーマとすることはできない、ということについては留意頂きたい。
- ・研究開発プロジェクトとしては、京都における、低炭素型交通システムへの転換への現実的展望と、そのなかにおける自転車利用の促進に対する課題の整理を、より総合的視点から行う必要がある。すなわち、研究開発プロジェクトの長期目標として挙げられている、(i)2050年を目標とする京都市におけるCO₂排出の大幅削減、(ii)自動車（人流）トリップの自転車への大幅な転換、(iii)削減効果実現のための「自律的協働」の仕組みの形成、(iv)市民・地域・事業者・NGO・行政などの協働的実践の始動と加速、を達成するために、対話空間手法を一つのツールとして、具体的、かつ説得力のある現実的シナリオを構築されることを期待する。